

地域連携だより



ワンチーム 看護師とケアメイトは ONE TEAM で

看護部長 加藤礼 かとう あや

看護部には看護師だけでなく 43 名のケアメイトが活躍しています（令和元年 10 月現在）。年齢層は 18 歳～62 歳、若い力からベテランまで幅広い構成です。

ケアメイトは、看護部の主任・副主任が考案した「看護補助者」の当院オリジナルの名称です。「共にケアする仲間」という意味が込められています。あらゆる部署で患者さんのケア、医療器材の取り扱い、事務業務などを行い、医師や看護師の業務をサポートする存在です。

今回、ケアメイトのケア講習を実施しました。テーマは「患者さんへの爪切りと、ひげ剃りの実習」です。院内の男性職員がモデルになったの実践研修でした。

研修後の感想は「ひげ剃りや爪切りを自分以外にすることはほとんどないので、手順をしっかりと教えてもらい演習できてよかった」「患者の安全に考慮して実践できたので今後の業務に生かせる」「人の爪を切る技術やひげを剃ることの難しさが分かり勉強になった」「患者さんのケアをするのは大変だと思った」などがあり、真剣に習得しようと取り組んだことがわかりました。

これからも質の高い看護を提供するため、看護師は専門性を必要とされる業務に専念し、ケアメイトは医師や看護師をサポートする力を高めてまいります。

共に利他の心に根ざした看護の実現を目指し、地域の皆様に親しまれるあたたかい ONE TEAM をめざして。



ケアメイトと加藤部長（前列左端）



研修後、男性職員をモデルにひげ剃りと爪切りの演習

射水市における地域包括ケアシステムとは

～射水市役所との交流会～

9月12日（木）、射水市役所 地域福祉課より4名の方にお越しいただき、射水市における地域包括ケアシステムについて詳しく伺いました。当院からは患者支援センターのスタッフをはじめ、医師、看護師、コメディカル、医療ソーシャルワーカー、医事課職員など多職種が集いました。

当院では今年5月に患者支援センターが開設し、特に入退院支援の体制整備に力を入れています。適切な支援を行ううえで、射水市における地域包括ケアシステムへの理解を深めることは欠かせません。当院からのリクエストにお応えいただき、このような機会を設けることができました。

射水市役所 地域福祉課のまさおかてつひこ政岡哲彦氏（課長補佐兼地域ケア推進係係長）のご講演では、射水市の地域包括ケアシステムにおける6つの柱と、その具体的な内容を明示されました。

当院でも行っている認知症カフェ、認知症サポーター養成講座はなじみがあったものの、介護予防事業の「湯どころ体操教室」や地域支えあい体制構築としての「地域支え合いネットワーク事業」などの取り組みは「初めて知った」という職員も多数でした。

"射水市になくなくてはならない、愛される真生会となります。"をビジョンの一つに掲げている当院にとって、地域でなされている活動を知る機会は大変意義深いものです。

当院からは真生会デンタルクリニック院長のいなだまさかず稲田雅一医師がオーラルフレイル（こうくう口腔機能の衰え）をテーマに、高齢者だけでなく、早期からの小児への対応が問題になっていることを啓発しました。また、訪問看護ステーションなかいこころ所長の中井ともこ看護師は令和3年3月に開設予定の看護多機能小規模施設のコンセプトを紹介。開設にあたっては射水市とも相談を重ね、準備を進めています。

他にも地域医療部の部長であるとよだしげお豊田茂郎医師からは増加している当院の出張講座の話題、またゆいかわみほ結川美帆管理栄養士は栄養トータルケアをテーマに、「栄養に関する地域の相談窓口開設を実現させたい」と発表し、共感をいただきました。

～真鍋院長より一言～

地域包括ケアシステムの構築のため、この地域では何が求められているのか。真生会は何ができるのかについて、射水市役所の方々と直接、話し合うことができ、とても貴重な機会となりました。これからも住み良い町づくりに少しでも貢献できるよう、皆で力を合わせて行きたいと思います。



まさおかてつひこ
政岡哲彦氏の講演



多職種が集う



フリーディスカッションでは、地域で何ができるか、各自の思いを語り合いました

第2回地域連携懇話会 開催

「人間回復の医療連携と街づくり」^{さこう}酒向先生が講演

9月26日（木）18時30分より、当院主催の第2回地域連携懇話会を第一イン新湊にて開催いたしました。

開催にあたり、準備メンバーが県内で行われている他施設の地域連携懇話会に参加し、イメージを膨らませました。そのうえで「よりよい地域包括ケアシステム構築をめざして」という懇話会テーマにふさわしい内容にするにはどうすればよいか、院内講師、案内状の送付先、おもてなしのお土産等、検討していきました。



^{さこうまさはる}
酒向正春先生

今回の懇話会は、地域医療を支える医師の方々はもちろん、さまざまな職種の方にもご参加いただいたことが特徴だと思います。特にリハビリ医の酒向正春先生（大泉学園複合施設 ねりま健育会病院院長・ライフサポートねりま管理者）のご講演でしたので、リハビリテーションに関わる職種の方にも声をおかけしました。「人間回復の医療連携と街づくり」というテーマで、攻めのリハビリと楽しく歩ける街づくりのお話でした。寝たきりの人でも歩いてもらうことを目標にし、実現できた例を動画を交えて聞かせていただきました。多くの人が無理だと思うこともできる方法があることを学びました。



^{うめはらこうじ}
形成外科の梅原康次医師

当院からは形成外科の梅原康次医師が「形成外科の役どころ、地域のニーズに応えたい」と題し、県内に数少ない形成外科でどのような治療ができるのか紹介しました。

後半の懇話会は各テーブルで先生はじめさまざまな職種の方々が集まって山海の珍味に舌鼓を打ち、情報交換が活発になさっていました。料理は和食も洋食も楽しむことができ、好評でした。

射水市において、今回参加された方々だけでなく行政、医療・介護関係、そして市民の皆様と団結して住み良い街づくりを実現していきたいと思えます。

（準備メンバー：薬剤師 ^{たばたよしたか} 田畑佳孝）



会場は第一イン新湊

ー参加した当院スタッフの感想ー

酒向先生の講演をお聞きし、大きな衝撃を受けました。医師としてリハビリテーションの第一線でご活躍なさるのみならず、患者さんの生活圏でのリハビリのために、街づくりにまで視野を広げ、街そのものを魅力的なリハビリスペースに変えようとの発想力、企画力、行動力、発信力に圧倒されました。ただ根底には「患者さんや地域住民に元気になってもらいたい」との熱い思いがあることもお話から感じました。都市部とは環境や資源に違いはありますが、真生会富山病院を取り巻く射水地域で、自分の役割の中でどんな貢献ができるか、アイデアを提案し、話し合い、発展させていければと思います。

（管理部 部長 ^{まつだまさき} 松田雅樹）

「攻めのリハビリ」という言葉がとても印象に残りました。回復期はもちろんのこと、急性期でも慢性期でも患者さんの状態を見極めて関わるのが回復につながり、どんどんリハビリを進めていくことが必要と感じました。また、当院ではどのように関われるのかを考えさせられました。脳画像を見て患者さんの残存能力を確認したり、予後予測を行うこと、早期離床の際は主治医の立ち会いで行うなど、酒向先生が行っている内容を取り入れながら今後のリハビリに活かしていきたいです。

（リハビリテーション科 作業療法士 ^{みやざきゆり} 宮崎友梨）

小学校で講演「生活習慣の大切さ」

令和元年9月9日（月）、真生会デンタルクリニックの稲田雅一院長が大島小学校で講演を行いました。今回招待されたのは、全校生徒対象の「ポプラの集い」という行事です。

講演の中で、次のような話がありました。



稲田雅一院長

化石発見のきっかけは歯！？

最初の恐竜イグアナドン（イグアノドンともいう）は、歯の化石が最初に見つかったことから存在が認められた。イグアナに似ていたことと、歯を意味する「ドン」という言葉が合わさって名づけられたという。歯は身体の中で一番硬い部分なので化石として残りやすい。

硬い歯に穴が開くのはなぜ？

歯の生え始めは軟らかい乳歯。小学生のうちに永久歯に生え変わる。生えたての歯は虫歯になりやすいため、歯みがきをしっかりしなければいけない。みなさんは今、その大切な時期にある。身体は食べ物から作られているので、食べ物が変わると最初に影響が出るのは口。軟らかいものばかり食べている人と、硬いものも食べている人では顎の大きさが変わってきて健康にも差が出てくる。

以下は参加した小学生の感想です。

- ・あんまり甘いものを食べないようにしたい
- ・先生の話聞いて歯を大切にしようと思いました
- ・都会の小学校の給食は軟らかいものだったのでびっくりしました



【稲田院長の感想】

1年生から6年生まで、幅広い年齢層に話をするため、6年生に合わせると1年生がついてこれず、1年生に合わせると6年生が退屈な内容になってしまう。そこで、3年生に合わせた話をすれば多くの皆さんがついてきてくれると考え、皆さんが興味を持ちやすい恐竜や芸能人、お菓子の内容を混ぜて話をしました。特に小学生の子どもたちは歯が生え変わる大切な時期です。私の話が少しでも毎日の生活習慣を改善し、健康な歯を維持する手助けになったなら幸いです。

講演後、小学校の先生からお礼のメールをいただきました。お子さんたちが自分の課題として歯の健康を守る大切さを考えられただけでなく、教職員の方にも訴えたいことのポイントを受け止めていただけたことがわかり、うれしく思いました。



全校児童・教員700名を前に講演